

第2回 食に関する指導研修会

令和4年2月5日（土）に、新聞教育支援センター代表 吉成勝好先生を講師にお迎えし、「実例から学ぶ 食育だよりの魅せ方、伝え方 七つのヒント」という演題で研修会を行いました。前回の研修会同様、オンラインでの開催となりました。204名の会員が参加し、読みたくなる食育だよりにするためのヒントを学ぶことができ、とても有意義な研修会になりました。



1 おたより作りは「企画」が命

食育だよりは、学校から発行される通信類の一つです。読者のニーズに応える通信にするためには、まずは企画作りが基本であることをお話いただきました。子どもたちや教職員との会話、テレビや新聞、インターネットなどの話題に常にアンテナを高くはり、対象者に合わせたネタを見つけることが大切であり、そして、価値ある情報を発信することで、読み応えと楽しさが詰まったおたよりになることを教えていただきました。また、年間計画を作成することで充実した内容のおたよりの定期発行につながり、食に関する指導の全体計画にも関わることを再認識しました。

2 「思わず読んでみたくなる！」その鍵は・・・

「読みたい！」と思ってもらえるおたよりを作るには、見出しや、レイアウトの工夫をすると良いことを教えていただきました。見出しについては、読者の目を引くような「キャッチコピー」を掲げることや記事の内容や要点を知らせたり、見出しの大きさで重要度を知らせたり、拾い読みするだけでどんな記事が載っているかわかるような見出しをつけるの良いことを学びました。また、レイアウトについては、罫線で囲んで箱の中に入れてたり、写真に吹き出しをつけるなどのメリハリをつけたりすることで、インパクトのあるおたよりになることが分かりました。

3 双方向性のある通信をめざして

一方通行になりがちなおたよりですが、読者の感想や意見などを載せたり、給食に関わるエピソードを募集したりする双方向性のある通信にすることが大切であり、読者の声を紙面に反映させることで、読者とともに考え、交流ができるおたよりになることをお話いただきました。

最後に、愛知県の小中学校の「食育だよりに」についてご指導いただきました。おたよりのネーミングや見出しの付け方、箱の使い方について、実例を使ってアドバイスをいただくことで、読みたくなるおたより作りへの多くの学びを得ることができました。

《参加者の声》

- おたよりは企画が大事ということを知り、楽しみにしてもらえる内容を考えていきたいと思いました。また、食育の授業や給食委員会活動、掲示物などと連動させるとよいことも分かりました。これらの内容をおたよりに載せることを考えて、来年度の計画を作成してきたいと思います。
- 線や箱で区切ることで見やすくしたり、見出しを簡潔かつ、読みやすくしたりする工夫が必要だと思いました。「〇〇になる！」のような見出しにすると、どんな内容が書かれているか読みたくなるということだったので、早速取り入れようと思いました。